第４学年３組　体育科学習指導案

場所　体育館　　指導者　冨永　悠真

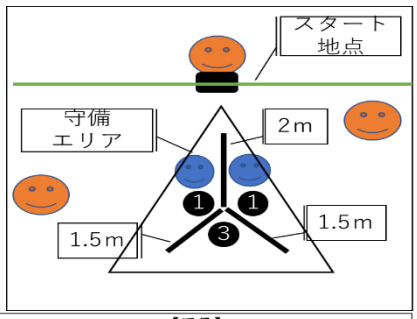
１　単元名　スフェリカルシュートゲーム（ゴール型ゲーム）

低学年のボールゲームでは、得点につながる動きを個人で行うことが多い。一方、高学年のゴール型ゲームでは得点につながる動きを仲間と連携して行うことが多い。そこで、中学年のボールゲームでは、集団対集団の攻防をしながら、友達と力を合わせて得点を競い合うゲームを通して、仲間と協力して得点をしたり防いだりするゲームのたのしさに親しんでほしい。

本学級の子どもたちは、自分が得点することのみに執着してしまい、友達の動きやチームの仲間と協力することに目が向いていない子どもが多い現状がある。そのような子どもたちが、得点するためにはボールを持たない時の動きが重要であるということに気付き、その動きを友達と共に試行錯誤していってほしいと願う。

そこで、本実践では「スフェリカルシュートゲーム」に取り組む。このゲームは、攻守混合で行う足でのボール操作によるゴール型ゲームであり、相手ゴールにパックを通すと得点になるという簡単なゲームである。攻守混合であるものの、攻撃エリアと守備エリアを分けていることで、攻撃側が協力して攻撃をしやすくしている。また、攻撃側はゴールを３６０度どこからでもねらうことができるようにしているため、攻撃側が有利な状況を生み出している。さらに、ゴールゾーンの広さによって得点の重みを変えている。このような状況でゲームに親しんでいくことで、得点するための意図的な動きを仲間と協力しながら試行錯誤していくと考える。

２　単元について



【用具】
・ボールはパックを使用する。
【ルール】
・攻撃３ー守備２で行う。（３on２）
＊守備の一人は得点板（以下の場合ローテーション）
・DFがボールをカット（保持）したり、コートからでたりした場合、得点した場合にはスタート地点へ３人とも戻り攻撃する。＊守備の準備ができてから！
・1.5mゴールゾーンは３点、２mと1.5mゾーンは１点とする。＊守備得点シュートブロックで１点。
・守備はゾーンディフェンス（三角形）。
・時間は２分の前後半で攻守交替する。
・ドリブルはなしとする。＊タッチはOK！基本パス。

⑴　本単元では「スフェリカルシュートゲーム」（ゴール型ゲーム）に親しむ中で、味方やスペースにボールをパスしたり、ねらったゴールにシュートをしたりするボール操作とシュートしやすい場所に移動したり、ゴールに体を向けたりするボールを持たないときの動きを身に付けることをねらいとしている。また、仲間と協力してパスをつないで攻撃をしたり、守ったりすることのよさを感じながら、仲間と共に運動をすることのたのしさを味わうこともねらいとしている。このゲームのルールは右記の通りである。このゲームでは、どこからでもシュートすることができるため、シュートをするたのしさを単元導入時から味わうことができる。しかし、守備者がいるため、ただシュートするだけでは得点することは難しい。そこで、仲間へのパスや、シュートしやすい場所に移動したり、ゴールに体を向けてパスを受けたりすることを通して、仲間と協力しながら得点するための動きを試行錯誤していく必要性が生まれてくる。

⑵　子どもたちは、３年時にボールを投げてパスをつないでシュートするゲームに親しんできた。その中で、ボールの投げ方や状況を判断してシュートをすることを学習してきている。しかし、協力のよさにまでは目を向けられていなかった。また、足でのボール操作を経験していない。そこで、本単元では、パックを使い足でのボール操作を容易にし、仲間との協力が必要な状況を設定する。そうすることで、ボールを持たないときの動きの大切さに気付き、仲間と試行錯誤することで今後のボール運動の学習へとつながっていく資質・能力を育んでいく。

⑶　本単元に関する子どもの実態は次の通りである。（調査人数３５人）

①　全員がパックを 3m以上蹴ることができる。

②　自分がボールを持たない時にも、動いて攻撃に参加しようとする子どもが若干名いる。

３　単元の目標

⑴　ボールをねらったところに蹴ったり、ボールをもらえる場所に動いたりすることができる。

⑵　友達と協力してシュートをするための作戦を考え、それを友達に伝えることができる。

⑶　運動に進んで取り組み、規則を守って運動したり、友達の動きや作戦等の考えを認めたりしながらゲームをたのしもうとしている。

４　指導計画（７時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1・2	1　学習の見通しをもち、今の自分たちに合うように規則を調整する。	○　ゲームに十分親しませ、身に付きそうな力や課題となりそうなことを言語化させ、見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ○　ルールの困り事を全体で共有し、調整しながらゲームをすることで、ゲームの全体像を把握し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ○　困り事や思いに根差した練習を選択できるようにするために、チームの実態に応じて高めたい技能を選んで練習できる環境を整えておくようにする。	【思】ゲームをたのしむために、規則を工夫したり、調整したりできる。（観察・記述） 【主】規則を守ってゲームをたのしもうとしている。（観察・記述）
3～7	2　得点をするための作戦を追求する。 ⑴　シュートしやすい場所を見付ける。 ⑵　ボールを持たない時の動きを試行錯誤する。	○　ボールの止め方や蹴り方に関する困り事が出た場合には、教師が直接指導をしたり、子どもにモデリングをさせたりして、動きを試せるようにする。 ○　体育日記や前時の動きの様子から困り事を見取り「どこからシュートすると得点がしやすいか」という発言やその状況を基に課題を設定する。その後、状況を示したコート図を基に実際にゲームをする中で、コート図にシュートが決まった場所を記入させ、シュート入りやすい場所を思考しやすくする。 ○　特に本時の学習では体育日記や前時の動きの様子から困り事を見取り、「２人で守られているゴールに１人で得点をとるのは難しい」という発言やその状況を示したコート図を基に、ボールを持たない人の動きに焦点化し課題を設定していく。その後、チームでコート図に作戦を立ててから、試しの場に移ることで見通しをもって活動できるようにする。（本時４/７） ○　ボールを持たない時の動きをコート図で整理する。その作戦の意図やよさを語らせることで、ボール保持者とボールを持たない人の位置関係に気付きやすくし、価値付けることで試す際の視点として活用できるようにする。	【思】ボールを持たない時の動きを友達に伝えることができる。（観察・記述） 【技】ボールを持たない時に、シュートをしやすい場所に移動することができる。（観察） 【主】運動に進んで取り組み、仲間の考えを認めゲームをたのしもうとしている。（観察・記述）

５　本時の学習

⑴　目標

得点をするためにどこでパスを受けるかを試行錯誤することを通して、守備がいないゾーンへ動いてパスを受けると得点しやすくなることに気付き、ゲームに生かすことができる。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
7	１　準備運動をして、チーム内で練習をする。	○　パスを止めるのが苦手だから、今日はみんなでパスの練習をしようよ。 ○　コースをねらってシュートをすると得点が決まったから、守りをつけてシュートの練習をしよう。
6	２　本時の課題を把握し、試してみたい動きを考える。	○　私たちのチームはなかなか３点のゴールが決まりませんでした。 ○　コーンがある位置からじゃシュートは入りにくいよ。ちょっと動いてパスすればいいじゃん。 ○　ボールを持っていない人が、こっちにきたらパスができるんだけどなあ。 ○　あっちの空いているスペースにパスした方がいい。 ○　どの作戦がうまくいくんだろう。試してみたい。
9	３　試しの場で試す。 ⑴　動きを試す。 （４分×２試合）	○　ボールをもっている人の近くでパスをしても、守備が二人いたらあんまり意味がないから距離をとってパスしてみない？ ○　守備がいないゾーンに移動しようよ。
9	⑵　全体で共有する。	○　仲間が横に広がっていてパスすると、シュートをどちらのゴールにもねらえました。 ○　ダイレクトでパスをするとどちらの守りの人が間に合わないからシュートが決まりました。 ○　仲間と何回かパスのラリーをして守りをゆさぶるとシュートが決まりました。 ○　ボールを持っていない人がフェイントをすると守りは逆をつかれてシュートが決まりました。 ○　相手がいないところで待っていて、パスをもらったらシュートをすぐ打てるようにしようよ。
9	４　試合をする。 （４分×２試合）	○　私たちはどの作戦を試してみる？ ○　最初に考えた三角の作戦を試そうよ。 ○　今までは、１人でどうにかしようとしていたけど、仲間と協力したら作戦が増えました。
5	５　学習を振り返る。	○　ボールを持っていない時に、どちらのゴールにもシュートがねらえる場所に移動しておくとシュートが決まりやすかったです。 ○　きちんと仲間にパスしたり、パスを取ってすぐシュートしたりするのが難しかったからパスやシュートの力加減を調節する練習をしたいです。

前時では、守備の状況を整理し、どこからシュートをするとゴールが決まりやすいのかについて考えた子どもたち。しかし、２人で守られているゴールに１人で得点するのは難しいという困り事がありました。そこで、本時はボールを持たない人の動きに焦点化しチームの作戦を考えていく姿を生み出していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

○　これまでに学習してきた動きや本時の学習の中で試してみたいと思っていた動きを、実際に練習の場で試してみる時間を設定することで、子どもたちに必要感のある技能を高めることができるようにするとともに学習の意欲を喚起することができるようにする。

【教材・教具】
○　学びの足跡
○　コート図
○　写真

○　体育日記の「守備が二人いるときに１人でシュートを決めるのは難しい」という経験を発表させ、その時どのような状況だったのかをコート図や写真で示す。そうすることで、多くの子どもが経験を振り返り共感できるようにする。

○「仲間と協力してパスをつないだらシュートが決まりそう」などの発言を取り上げ、ボールを持たない人の動きや空いているスペースに目を向けられるようにする。そして、ボールを持たない時には、どこに動くとよいかやどんな動き、作戦があるのか等を発言させ、その動きの意図や思いを板書に整理しながら、以下の課題を立ち上げていくようにする。

ボールを持っていない人は、どこでパスをもらうと得点できるだろう。

○　試しの場に移る前に、コート図を複数配付し試してみたい動きをチームごとに記入させる。そうすることで、自分たちの位置を客観的に把握し、見通しをもって試しの場に取り組むことができるようにする。

○　試しの場で活動している子どもたちの動きを見取り「どうしてそこにパスをしたのか（意図)」「どこにパスをするとうまくいきそうか（場所)」「なぜ今パスを出したのか（タイミング)」などを問いながら関わり、自分たちの動きを自覚できるようにする。

○　全体で共有する際は、チームごとにうまくいった時の動きと、うまくいかなかった時の動きのコート図を分けて提示させる。その上で、意図を語らせる中で守備の人数やボールを持たない人の場所に着目させ、それぞれの動きの共通点を見付けていく。

○　うまくいった時の動きと、うまくいかなかった時の動きを比較させ、何が違うかを問うことで、守備の人数が少ないゾーンや、守備のいないゾーンでパスを待つ方が得点しやすいことに気づくことができるようにする。

○　ゲーム中は、ボールを持たない時に守備が少ないゾーンに動いている様子や守備がいないゾーンにいる仲間にパスを出そうとする動き（ボール操作）を見取り価値付けていくことで、ボールを持っていないときの動きをより意識してゲームできるようにする。

○　本時の学習で、動きが向上したチームを取り上げ、ボールを持たない時の動きを工夫することのよさや友達と協力して動くことのよさに立ち止まらせることで、振り返りに生かせるようにする。また、子どもたちの発言から、仲間と協力して攻撃する際に必要な技能に関する発言を価値付けることで、今後の学びの見通しをもつことができるようにする。

【評価】
守備がいないゾーンへ動くと得点しやすくなることに気付き、ゲームで生かそうとしている。（観察・記述）